

クラス	308	担当教員	早川すみ江
テーマ	心の病への理解と精神分析的枠組みに基づく観察と考え		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『新訂増補 パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ―病理の理解と分析的対応の実際』（共著）金剛出版 2019 他</p> <p>【論文】「週 1 回の精神分析的心理療法におけるコンテインメントのプロセス―情緒的理解と待つこと―」（精神分析研究 Vol.67No.3,2023）</p> <p>「ワーキング・スルー概念の再考」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 16,2021） 他</p> <p>【研究課題】「精神分析的心理療法過程の中で起きる転移・逆転移およびクライエント／セラピスト間の交流のあり方に関する研究」「ロールシャッハ・テストと心理療法過程の中で の精神力動との関係に関する研究」</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：精神分析、心の病、ワークディスカッション、自己理解			
<p>【目的】 このゼミでは、心の病と精神分析学について学びます。心の病への理解を深め、その回復の過程について学ぶとともに、そうした心の病に陥る予防的手段として、精神分析的枠組みに基づき日常で起きている対人関係の相互作用をよく観察し、それについて深く考え、人との関係の中で起きるさまざまな現象について検討していく力を培うとともに自己理解を深めることを目的としています。</p> <p>【内容と授業計画等】 心の病とその回復過程について学習するために、まず様々な心の病を理解し、その回復を助けるひとつの手段としてリワークについて学びます。また 3 年前期の終盤には、心療クリニックのリワークに参加しているメンバーさんたちと一緒にレクレーションをおこない、それまでの学びの理解を深めるための体験学習を行います。</p> <p>そうした学習と並行して、精神分析学の中でも特にクライン派対象関係論について学び、人間の内的世界のあり方や対人関係の相互作用の中で起きている現象を理解するための理論的枠組みを学習します。また自己理解を深めるためにさまざまな心理検査やワークを体験してもらいます。その後、ワークディスカッションという手法を用いて、日常で起きている対人関係の相互作用を関与観察した素材を用いて、そこで何が起きているのかをグループディスカッションを通して、検討し、深く考え、そしてそこから情緒的に学ぶことを目指します。</p> <p>こうした体験学習やグループディスカッションを通して、人間の心や対人関係の相互作用に関して自分が興味を持つテーマを見つけていきます。文献・資料の収集と整理、および発表、討論を通して、テーマに関する文献・資料の集め方、まとめ方、発表の仕方なども学んでいきます。こうした作業を行いながら、3 年の後期には各自の卒業研究のテーマを具体化していきます。</p> <p>そして 4 年次には、各自がそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め、お互いの研究を発表し、討論し合いながら、お互いによりよいものに仕上げたいと思っています。</p> <p>卒業後どんな仕事に就こうとも必然的に人間の相互作用がともないます。そこで起きることを表面的にとらえ、処理するのではなく、その現象の奥にある人のこころや無意識のコミュニケーションについて思いをはせ、考えること、そして自分自身のこころや感情に向き合うことのできる人になってほしいと思っています。そうした力が、ストレスに負けない柔軟な心を養うことにつながるものと思います。受身的にすぐに答えを求めるとはではなく、わからないことについて主体的に深く考え、考え続けることをいとわぬ姿勢を期待します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>精神分析や人間の心、無意識に関心があり、そうしたことについて深く考えてみたいと思っている人を待っています。各個人の卒業論文のテーマは、必ずしも精神分析と関係していなくても構いません。自分自身が見つけた問題意識を追及していくお手伝いをします。またディスカッションは苦手という人も大丈夫です。半年もすれば結構自分の考えを気楽に話せるようになります。</p>			